

こんにちは

会社訪問記

精製シンナーでは東海随一、
メーカー機能を備えた
産業廃棄物処理業者です。

巴興業株式会社(西加茂郡三好町)

西加茂郡三好町の丘陵地に、産業廃棄物処理業のなかでも廃液、とりわけシンナーの再生に力を傾注している会社がある。それが巴興業株式会社だ。廃溶液のリサイクルをはじめ15年、という鈴木社長に事業内容を含めていろいろお話を伺いました。

—まず、この事業をはじめられたきっかけを教えてくださいませんか。

『私は以前、塗料メーカーに勤務し塗料製造工場の管理責任者をしていました。塗料メー



鈴木社長

カーやシンナーメーカーが得意先に製品を販売する場合、必ず廃液を処理してほしいという要望が出てくるんですね。しかし、メーカーは年々増加する廃液を持てあましていました。私はこの廃液処理がビジネスになると直感し、長年培ったノウハウをベースにこの事業をはじめたわけです。以来、印刷から自動車半導体関連にいたるまで排出される廃液を蒸留再生し、リサイクル製品として供給しています。』

—では現在事業規模はどれくらいになっていますか。

『従業員は12名、蒸留精製装置が3基、廃油廃塗料焼却炉が1基、車両が3台、製品移送用タンクローリーが1台、営業エリアは尼崎市から静岡県までです。廃液再生プラントは、全て自動化していますから、1つのプラントに1人つくだけ。



社名/ 巴興業株式会社 所在地/ 愛知県西加茂郡三好町大字打越
代表者/ 鈴木雅二 設立/ 昭和52年 従業員数/ 12名
TEL/ 05613(4)3171(工場) モットー/ 「信頼・安全・挑戦」
蒸留精製装置/ 3基 廃油廃塗料焼却炉/ 1基
保有車両/ 3台、製品移送用タンクローリー1台 事務所/ 本社・工場
営業種別/ 収集・運搬、中間処分
取扱品目/ 廃油、廃プラスチック、ゴムくず

今後は設備投資の促進を図っていきたいですね。——もう少し廃液再生プラントについて教えていただけませんか。

『当社の場合はほとんどシンナー関連ですが、廃液の中には必ず2%ほど水が混入しています。この水をコンマいくつまでに脱水し、精製するのがノウハウなんです。現在、廃液の70%までの回収率を誇っています。廃液再生は古紙と異なり、何度でもリサイクルが可能。廃棄物の減量化という意味でも、精製シンナーの品質向上や安定供給が当社に課せられた使命であると考えています。——安全対策や従業員教育はどのようになされていますか。

『取扱う品目が危険物第4類に属していますから、安全面は気を配っていますね。特に地震対策は万全の体制を敷いています。従業員には、常に危険物関連の知識を得てもらうため、ひんばんにミーティングを行ったり。ほとんどの従業員が危険物取扱いの資格を取得していますね。』

—休日とはどのような体制を取られていますか。

『休日は年間110日から113日。就業時間は午前8時半から午後5時まで。残業は一切なし。』

—最後にモットーを教えてくださいませんか。

『モットーは「信頼・安全・挑戦」です。』産業廃棄物処理業というより「準メーカー」的な存在である巴興業株式会社。鈴木社長のリサイクルに対する熱い意気込みが、言葉の端々に感じられました。